

から生まれた「コミック」 たちよ、目指すのは世界制覇

対
談
リ
レー

秋田から東京に出る口実は中央大学法学部受験、
落ちる目的で受験して、落ちるたびに強くなる
麻雀出来なきゃ学生じゃないと、麻雀漬けの目々を過ごす
雀荘で見た漫画の原作者募集広告が自分の進路を決めた
ある筈のない事、
ある筈がないキャラクターを創るのが漫画だ
主役には弱点が、敵役には欠点がある、という

小池 一夫 氏

漫画原作者

本名僧号：俵屋星舟 1936年秋田県生まれ。1959年
中央大学法学部卒。山手樹一郎に師事し小説家を目指すが断念。
さいとうプロダクションに所属し、『無用之介』『ゴルゴ13』
などの原作に携わる。

1970年代に『子連れ狼』『御用牙』『修羅雪姫』などアナーキー
な時代劇を多数発表。中でも『子連れ狼』は1987年米国で
出版され日本漫画ブームの草分け的存在となる。

大阪芸術大学キャラクター造形学科教授、神奈川工科大学情報
学部情報メディア学科教授、大阪エンタテインメントデザイン専
門学校教授を歴任し、後任の育成に力を注ぐ。「キャラクター原
論」の提唱者。その他ゴルフ、麻雀、剣道への造詣も深く、茶
道の入門書の監修も行なう。

マンガ戦国時代に「劇画」・「漫画」 時代劇の息を絶やすな！ 作家

描き分けが出来て初めて

アドレナリンやドーパミン、セロトニンなどの

ホルモンを出させる描き方につながる

小説が国境を超えるには漫画化して逆輸入すべきだ

居合抜きも舞台に立つ能も歌舞伎役者も

一歩踏み出す前に親指が立つという

時代劇は瀬戸物を扱うような優しいものではなく

もっとリアルなものだ

教えるのではなく訊かれれば答えるスタンスで……

逢坂 剛 氏
作家

1943 年東京都文京区に生まれる。
1966 年中央大学法学部卒業。同年博報堂入社。
1980 年オール讀物推理小説新人賞受賞。
1987 年『カデイスの赤い星』で直木賞受賞。
1988 年同じく日本推理作家協会賞受賞。
1997 年博報堂退社。
2001 年日本推理作家協会理事長就任。(～2005 年)
2014 年日本ミステリー文学大賞受賞。
2015 年『平蔵狩り』で吉川英治文学賞受賞。
その他山本周五郎賞・江戸川乱歩賞・日本推理作家協会賞・大藪春彦賞等の選考委員を歴任。また朝日・読売・毎日各紙の書評委員も務める。

共通点は、時代小説と

神田時代の中大法学部

逢坂 今日では中央大学法学部の大先輩で、漫画原作者の小池一夫さんにお越しいただきました。小池さんの8年後輩になります。

小池 同じ中央大学法学部のご出身なんですね。私は山手樹一郎の弟子ですが、逢坂さんの父上の中一弥さんのファンで『剣客商売』の全集を持っていますよ。中一弥さんの絵のシンプルさが好きでした。

逢坂 親父が聞いたら喜びます。2015年10月下旬に104歳で亡くなりましたが、103歳まで私の作品の挿絵を描いてくれて、大往生でした。

小池 中さんは池波正太郎先生の挿絵が多かったですね。山手は木俣清史先生でした。

逢坂 懐かしい名前ですね。親父は『丹下左膳』の挿絵で有名な画家、小田富弥さんの弟子でした。

小池 西のぼるさんも好きですね。

逢坂 西のぼるさんは今年で71歳ですね。今日の対談を楽しみに来ましたが、最初からこんな懐かしいお話ができるとは思っていませんでした。

小池 「百舌」のシリーズや、長谷川平蔵シリーズも読みましたよ。



逢坂 恐縮です。平蔵シリーズは、出版社から「どうしても」と言われて、書いたんですよ。

小池 でも、平蔵は一度辞任して2度目50歳で引退して、1年で死んでいます。どうして死んだかという消息が全くないので10年程前に、その死ぬ迄の1年間を『花縄』というタイトルで『ビッグコミック』に連載したんです。

逢坂 それは知りませんでした。ところで元々小説家志望でしたか？

小池 秋田生まれで、東京に出る口実が必要だったんです。医者とか弁護士、役人

になるか、それで法学部を選んで中央大学を受けるからと言ったら、出してくれました。勉強しないで麻雀ばかりやってましたけど（笑）

逢坂 当時の中央大学は、司法試験の合格率が圧倒的に1位でしたね。

漫画雑誌の公募から

劇画原作者の道へ

逢坂 司法試験は受けられなかったんですか？

小池 高校生の頃、山手の本ばかり読んでいたので、上京してすぐ山手に会いに行つ

てその後よく遊びに行っていました。『夢介千両みやげ』が好きですね。

逢坂 親父がその挿絵を描きました。あの頃山手さんに、内弟子はいましたか？

小池 内弟子というか、郡順史さん、野村敏夫さんなど28人位いましたね。『新樹』という同人誌を持っていたので。

逢坂 あの頃は長谷川伸さんにもそんな門下生が沢山いましたね。

小池 平岩弓枝さんも山手先生も含めて、皆、長谷川一門です。山手の弟子で生き残っているのが私だけです。山手の最後は漫画という事です。『新樹』は私が先輩達の作品を載せて発行していました。編集役で、ほおずきなどの絵を描いていました。

逢坂 編集者でもあり、絵も勉強されたのですか？

小池 元々絵が好きでよく描いていました。ですから中先生が好きだったんです。

逢坂 いやあ、親父に聞かせてやりたかったです。私の小説は親父が装丁していました。

小池 すい装丁ですね。中先生の事を調べていて逢坂さんの事を知りました。

逢坂 小池さんは麻雀もお好きですね？『麻雀放浪記』の阿佐田哲也さんは本名の色川武大さん義徳で直木賞も受賞されていますね。

小池 阿佐田さんと、麻雀連盟の小島武夫さん、小説家の清水一行さんと私で「麻雀新撰組」というのをつくったんです。作家の梶山季之さんと阿佐田哲也さんの周りにも大勢集まって、毎晩のようにやっていた。

逢坂 大塚の駅近くに住んでいた頃、親父の絵を取りに来られていた色川さんがいつの間にか直木賞を獲ったので驚いていましたね。あの頃は麻雀が全盛で、ゴルフはあまり普及してなかったんですね。

小池 とにかく麻雀出来なければ学生じゃないような風潮がありましたから、司法試験は4回受けて4回とも落ちるんです（笑）

逢坂 私の場合は東京外語大のスペイン語科を受けて落ちて、早稲田の政経を受けて落ちて、かろうじて引っかけたのが中大の法学部でした。お茶の水の古い校舎にあった法学の研究会で、皆一所懸命に六法全書を読んでいるのを見た時に「あ、こりゃ駄目だ」と思った。それで、1年の夏休み前に司法試験を諦めて、マスコミを目指したんです。

小池 私は落ちるのが目的で、受験資格の控えを田舎に送って「また落ちた」と知らせるとお金を送ってくれるわけです（笑）
逢坂 大学の頃、将来何で飯を食おうと考えておられましたか？

小池 田舎からの仕送りでのんびり暮らしていて、麻雀も結構強くなっていたので、雀ゴロですか（笑）27歳の頃、麻雀屋で見た『週刊少年マガジン』に「マンガの原作者募集」の記事があったので「枯れ葉の紳士録」というのを書いて送ったんですが、その雑誌は1カ月前の号で締め切った後でした。でもそれがかえってよかったんです。700通ぐらいの応募全て駄目で、最後に遅れて着いた私の1通が面白かったようで、1968年さいとう・たかをさんの似顔絵がついた電報が届きました。さいとうさんは、丁度『無用之介』という片目の賞金

稼ぎの漫画をやっていて、ちばつやさんの『あしたのジョー』、梶原一騎さんが原作で川崎のぼるさんが絵を描いた『巨人の星』等も『週刊少年マガジン』で連載していた時期です。それで、さいとう・プロダクションで第4話ぐらいから書き継ぎました。「脚本部」は私一人ですけど（笑）
逢坂 あははは、そうですか。『無用之介』とか『ゴルゴ13』全部ですか？
小池 いやいや。『無用之介』一本です。当時、関西出身のリアルな漫画を描く作家の集団「劇画工房」が東京に進出して『無用之介』みたいな劇画を発表していました。



東京には、赤塚不二夫や藤子不二夫などの『週刊少年サンデー』があつて、それから大阪勢が描いている『週刊少年マガジン』の2誌が部数競争で一騎打ちをしていました。

逢坂 そんなことがありましたね。ライバル誌ですからね。

小池 劇画の団体と、新漫画の団体の双方の大將を仲立ちして握手させたのが、石森章太郎で、「劇画」「漫画」という言葉を使わないで「コミック」という案が出て、『ビッグコミック』が誕生したんです。

逢坂 へー！ そんな話初めて伺いました。

小池 1968年、水木しげる先生、さいとう・たかを氏、手塚治虫氏、石森章太郎氏、白土三平氏の5人の作家だけを載せた『ビッグコミック』の創刊号が小学館からドーンと出て、講談社側も『モーニング』だとか大人の雑誌を出し始めた時期を生き抜いてきたわけです。

逢坂 すこいなあ。要するに戦国時代ですね。

小池 80歳を越えるのは、さいとう・たかをさんと安孫子さん、藤子不二雄Aさんぐらいかな。

逢坂 作家もそうですが、今80歳過ぎて頑張っているのは森村誠一さんと西村京太郎さんぐらいかな。体力ですよね。とこ



ろで剣道もおやりになりますよね？

小池 小学生の頃親父に教わりました。

その頃はまだ米軍の統治下でしたので「剣道」という名称を使うことが許されず「撓競技」と言っていました。

逢坂 最終的には何段ですか？

小池 三段ですね。

逢坂 素人にはよくわかりませんが、傘一本持っていれば誰にも負けないと聞いたことがありますよ。

小池 30 cm程の定規で充分です。急所を軽く打つだけで相手は倒れます。空手も同

じょうなものです。

逢坂 私は武道にはまったく縁がないんですが、野球は好きで今も軟式の草野球をやっています。あと推理作家協会でソフトボール部もやっていますよ。

小池 中学3年生の頃から身長が183 cm、体重も80 kgくらいありましたので、代用教員なんて言われましたが、剣道では必ず面を取れるんです。親父には「ずつと頭を下げて、絶対に人に手を出すな」と言われて育ったので猫背になったのが悔しいですね。

逢坂 正当防衛だと言っても通用しませんね。

マンガと小説に通じる

キャラクターづくり

逢坂 私は劇画が好きで、伊吹吾郎さんがテレビでやった『無用之介』をよく見ました。『子連れ狼』はいつ頃でしたか？

小池 1970年に『漫画アクション』で連載がスタートしましたが、当時「子連れ狼の小池」と言われるのが嫌でしたね。他にもいっぱいやつてゐるんですから・・・

逢坂 それはおつしやる通りですね。

小池 でも、今は嬉しいと思います。

逢坂 そういう看板を持たない人が大半ですから。『新撰組血風録』の栗塚旭も土方歳三でしか憶えられていないし、島田順司は沖田総司ですが、この人と言えこれとすぐ浮かんでくるものがあるのはすごいですよ。原作を作る時はどのようにされますか？

小池 原作では構成、構図とテンポ、そして一番大切なのは、マンガのキャラクターです。「ある筈がない事」「ある筈がないキャラクター」を創るのが漫画です。原始の人間が最初に神と悪魔を創った、というのが私の「キャラクター原論」です。漫画の原作は、主人公を創らなくては行けない。ところが『幸福の黄色いハンカチ』は、高倉

健さんと言う俳優さんがいて、その人に合わせて作品が出来ていく、これが映画のシナリオと漫画の原作の違いです。「男はつらいよ」のシリーズも渥美清さんがいて、初めて寅さんのシリーズが出来るわけです。

逢坂 ゼロからのスタートですからね。

小池 強烈な主人公を創れば永く続くわけです。『うる星やつら』『めざん一刻』の高橋留美子、ゲーム『ドラゴンクエスト』シリーズの堀井雄二、『ドラップラー刃牙』の漫画家板垣恵介など、300人程の弟子をデビューさせました。

逢坂 作家というのは、基本的に弟子がいまさんから、それは幸せなことですね。私も小説の主人公をはじめ、キャラクターが頭の中で出来上がれば、7割完成だと思えます。

小池 「百舌」シリーズ等、大キャラクターじゃないですか。

逢坂 結果的にキャラクターが大事だと納得出来ますし、自信が持てました。「そんな事あり得ない、こんな悪い警察官はいない」と言われたこともあります。最初に「百舌」が直木賞の候補に残った時、選考委員のひとりに「警察官をこういうふうを描くのは如何なものか」という意味のことを言われました。

小池 『ゴルゴ13』も人を殺す男が主人公で長く続くなんで現実にある筈はないで



す。人間の感情の不安はアドレナリン、快樂はドーパミン、涙を流すとセロトニンが出て、そのホルモンが感情になるわけで、そのホルモンを出させるように描いていかないといいません。主役には弱点が、ライバルや敵役には欠点があるという描き分けが大切です。弱点と欠点は違いますからね。『子連れ狼』では、チャンバラが始まると「大五郎は大丈夫か」と心配するわけです。それが弱点です。

逢坂 選考会で「面白けれど、いかにも劇画みたいだ」という評がありますね。私

はむしろ誉め言葉だと思いますが。

小池 『進撃の巨人』は5000万部ですよ。いったいくらになりますか。アニス君の名は。』も大ヒットしましたが、『スター・ウォーズ／フォースの覚醒』の日本での興行収入が日本のアニメに負けています。それでも文科省も漫画というコンテンツをあまり認めません。補助も援助もないので漫画を描いている人間は貧乏です。それで若い人を育てていくために大阪芸術大学キャラクター造形学科で、どんどん漫画家を輩出してきました。

逢坂 教えた方は何人ぐらいいらつやるんですか？

小池 3000人ぐらいで、デビューしたのが1割でしょうか。

コンテンツ政策を

あらためて考える

逢坂 今、国内で小説がいくら売れても、世界市場にはなかなか出ていけない。打ち出さないといいません。漫画やコミックは絵がありますから、分かりやすいですね。

小池 だからすぐ国境を越えられるんです。

逢坂 羨ましいです。翻訳されれば確実に売れるのに、肝心の翻訳者がいないんです。文科省がテコ入れしないと駄目です。

小池 小説が国境を越えていくには「百舌」の公安の悪刑事事を漫画化してシリーズでやるとかね。漫画化していくと絵の表現力で伝わるので、逆輸入で小説の「百舌」がまた日本国内でクッと売り上げが上がるんです。表現力のあるビジュアルコンテンツが鍵ですね。

逢坂 おしやる通りで、映像の力って恐ろしい、と実感した事があります。「百舌」は30年前に書いた小説ですが、「MOZU」として2014年にドラマ化、2015年に映画になって確かに文庫本が動きました。でも、1回きりですよ。

小池 私はミステリーと時代劇しか読みませんが、佐伯泰英さん、上田秀人さん、辻堂魁さん、坂岡真さんなども読んでいます。米国のキーファー・サザランド主演の『24・トゥエンティ・フォー』は100本以上出ているので、そういうものを日本が出していけば、いいんです。

逢坂 でも、テレビドラマについては米国には勝てませんよ。ああいう動員力のあるものは、日本の映像作家では出来ないでしょう。

小池 それは文科省の仕事です。未だに「漫画なんか読んでないで勉強しなさい」とストップをかけています。今は漫画公認になつてはきていますが、10年程前の漫画のコンテンツの売上は1兆7000億円で、21兆円の自動車産業に近づくような数字ですよ。税金ばかり取つて認めないんですから。

逢坂 麻生太郎さんは漫画に対して前向きでしたよね。

小池 麻生さんが2000万円の資本で「日本国際漫画賞」を創設したのは本当にありがたい事です。日本人の売れてる漫画家にやらないとね。私は、「ウィル・アイズナー漫画業界賞」や「インクポット賞」等5つ程米国の賞をもらいましたが日本で受賞したのは「小学館漫画賞」ぐらいです。

逢坂 出版界というのは不思議な所で、



芥川賞と直木賞は有名ですが、出版社を儲けさせた西村京太郎さんや赤川次郎さんに対して、メジャーな賞をあげていないのか」と常々思っていました。笹沢左保さんは、直木賞を獲れなかったけれど、『木枯らし紋次郎』であれだけ売れた人に、どうして出版社が顕彰しなかったのか、と思います。その意味でも、「日本ミステリー文学大賞」や「吉川英治文庫賞」等は、それをカバーする意義のある賞です。漫画もこれだけ出版界に貢献している人ですから、メジャーな賞を作ってもいいと思いますね。

小池 以前、中国の北京外国語大学に招聘されて行ったら大学に軍隊がいるんですよ。1000人も学生達に2日間、広

い講堂で講座をやりましたが、その時の同時通訳は素晴らしいです。中国では三國志『水滸伝』『金瓶梅』『西遊記』の4作品から抜け出せないんですね。2002年、小泉純一郎さんが総理になった時「知的財産戦略会議」を立ち上げましたが、当時内閣官房下にあった「知的財産室」というのと呼ばれた事が1度もなく、ある時、知的財産のトップの荒井寿光さんから、漫画のコンテンツの重要性を代議士の先生達に説いてくれ、と言う事で出かけました。結果誰も聴いてない、食事してお茶飲んで後は私語の連発ですよ。これはまあ、実に失礼な話です。

逢坂 自民党の国会議員ですか？

小池 ええ、最後に「何か質問はありますか？」と、それだけ聞きましたら、「フックオフの事をどう思われますか？」って、そんな話をしに来たんじゃないんですよ。150年前にリンカーンが「米国は、天才の情熱という炎に利益という油を注ぐ」という知財保護の演説をしているんですが、日本は150年の遅れを取っているにまだに知財、コンテンツがわかつていません。ヒット作は粘りと努力と辛抱しながら連載して初めて生まれるんですよ。

逢坂 外国と比べて日本は、文化に対する対応や評価がとても悪いですね。図書館は、1つの作品に一定人数の予約が入ると、

早く読ませたいという名目で同じ本を、複本として買い足す。そのため、1万人とか2万人が読む分の売り上げが減って、出版社も著作権者も損をする。おかしいと思うて、推理作家協会の理事長をやっていた時に、当時図書館問題の担当をしておられた麻生さんに、図書館で本が借りられるとその本の著作者にポイントが与えられ、そのポイントをお金に換算してその分を税金から控除する、という方法を検討していただけないか、と陳情に行きました。「これはなかなかいいアイデアだなあ」と麻生さんは感心しましたが、「税制の改革はちよと時間がかかる」とそれきりです。図書館はタタで借りられて便利ですが、出版社や作家には不利な面があります。

小池 金額的にもそれほど大きくならないでしょうし、実現させてほしいですね。

逢坂 ヨーロッパ諸国には「公共貸与権」というのがあると聞きました。でないと作家だけでなくコミックも含めた創作者、つまりクリエイターの生活に直接響いてきます。今はネットで配信したりするので、活字がどんどん衰えていきます。これは本当に由々しき問題だと思います。

小池 漫画の世界では図書館はあまり関係ないんですよ。

逢坂 それはなぜでしょう。

小池 購入資金やスペースの問題もある

んでしようね。一時期、時代劇の文庫の書き下ろしが伸びてきた時代があつて、いいことだなあと思っていたんです。ただ、最近小説の形態がちよと変わって、例えば主人公と敵役がこれから戦おうと剣を抜く前に「つづく」になってしまう。続きマンガは週刊誌に任せて下さい、という事ですね。

逢坂 出版社の事情もあるんでしょうが、読者に対してちよと不親切ですよ。

小池 時代が違つて来たという感じですね。

『子連れ狼』映像シリーズは

こうして誕生した

小池 『子連れ狼』で、コマ・シャルの企画がきても、昔は「じつと我慢の子」「大五郎、3分間待つのだぞ」と言うコマ・シャルがありましたが、今は、拜一刀が大五郎を育てるのをコマ・シャルにしたいと言うんですが「ちゃん！」って一言だけの会話のない父子ですよ。どうします？

逢坂 大五郎は何歳ですか？

小池 3歳です。『子連れ狼』は途中から季節がなくて大変でした。

逢坂 『子連れ狼』の主題歌は、どなたが作詞をされたんですか？

小池 私です。レコード大賞で橋幸夫さんが歌って大衆賞をもらいました。ピクチャーの人から頼まれたのを忘れて半年ぐらい



経たある日、日本一の作曲家吉田正さんから電話で「出来たか？」と聞かれて「はい」と返事をしたんです。そしたら「どんな？」と言われ、ふと外を見たら雨が降っていたので「しとしとびっちゃんしとびっちゃん」と言ってしまったんですよ。

逢坂 あはは。ほんとに笑い話ですね。

小池 「しとしとびっちゃん」なんてどう作曲するんだろうと思っていたら子どものコーラスでしょうか？さすがに吉田正だなあ、と感心しました。

逢坂 や、ぼりプロですね。

小池 ある日、「子連れ狼をやらせろ」って若山富三郎さんが家に来たんです。ものすごく太ってる頃ですね。

逢坂 最初の映画の主演が、若山さんでした。あの方は殺陣が巧いですよ。

小池 直接刀を持って来て、庭に出て軽やかにトンボ返りして刀を抜いてね。鞘を持つてる左手の親指で鯉口を切つてちよとだけ刃を出してサツと切ったあと刀を振つて鞘に納めて、きれいでしたよ。

逢坂 あれ、ほんとにやつてるんですね。

映画版の「子連れ狼シリーズ」のシナリオは全部小池さんがお書きになったんですか？

小池 はい、その時に勝新太郎さんも「俺にも何かやらせろ」つて来たんです。

逢坂 それで『御用牙』の主演をされたんですよ。

小池 正月、東宝の二本立てで「子連れ狼」と『御用牙』、物書きとしてこんな光栄な事はなかったですね。

逢坂 それは忘れられないですね。先日CS放送で、『御用牙』を久しぶりに見ましたが、懐かしかったなあ。テレビの「子連れ狼」は、萬屋錦之介さんでしたよね。

小池 あと、高橋英樹さんと北大路欣也さん、1993年の映画では、田村正和さんが主演で、5人の方が拝一刀を演じています。「子連れ狼」は10年に1回復活するんです。

逢坂 今、殺陣が出来る人がいませんよね。先日亡くなられた松方弘樹さんは貴重な俳優でした。最後の世代の時代劇俳優で……。

小池 近衛十四郎さんは立ち回りが豪快

で、すごかったですよ。

逢坂 近衛十四郎はピカイチでした。一番殺陣が上手かったのは誰ですか？市川雷蔵、若山富三郎と近衛十四郎、あともう一人挙げるとすれば里見浩太郎でしょう。

小池 『座頭市』の勝新太郎じゃないですか。逆手で抜いて斬る、あれはよかったです。

逢坂 『座頭市』はよく観ました。トリック撮影だと思つてたくらいです。

足の親指が動く？！ 細部のリアリティ

小池 東映の撮影所で、若山と勝と私の3人で居合抜きの速さを競つた事がありました。

逢坂 居合もおやりになるんですか？それで、どなたが一番速かったですか？

小池 若山で、私は二番でした。剣道をやる者は趣味で居合もやります。居合の場合、下から、刀は左の腰のところで前側に鯉口を切つて抜くのではなく、グツと左の横に帯刀を押し出して外向きに鯉口を切れば、手かけから大きく弧を描くラインが斬れるでしょ。グツと腰を落として横へ行くと、肩口までの斬り上げた線、そしてその刀を返して逆袈裟になつてくると二本立て

が出来るとですよ。

逢坂 時代物を書いていて、一番困るのはチャンバラのシーンです。剣劇シーンをリアルに書くというのは、本当に難しいですね。私はチャンバラよりも西部劇で、今でもガンベルトを持つて、早抜き早撃ちをやつてますよ。

小池 いいですねえ。『夕陽のガンマン』とか、クリント・イーストウッドがデビューした頃ですね。やつてみたくなります。

逢坂 50年代の初めの頃に『シェーン』や『真昼の決闘』などリアルタイムで観てらっしゃるでしょう？

小池 私の頃はゲイリー・キューパーの『バイスーン（真昼の決闘）』やジョン・ウェインなどすごい俳優さんが沢山いました。西部劇で拳銃さばきが上手かったのは誰ですか？

逢坂 いろんな説がありますが、オーディ・マーフィーがいちばん速かつたという説が有力です。たしかに、彼は第2次大戦の勇士でもあったし、機敏でしたから。

小池 大統領になったレーガンはどうですか？

逢坂 あの人左利きなんです。左利きの拳銃使いつて、何となくさまになりませぬね。バート・ランカスターも『ベラクルス』を見ると、ガンプレイが本当に巧かつたです。

小池 剣道では居合は教えませんが、い

かに速く斬って納めるかということ。一度、鏢なしの「津田越前守助広」で10人ぐらいの弟子を前にやつて見せたんですが、ピタッと抜いて鞘から抜け切るか抜け切らないかのところで、「カチャカチャ」って鳴ったんです。

前の晩に「居合をやるから切れるようにしておこう」と打ち粉をして油を入れたのに、目釘を忘れたんですよ。

逢坂 ええ、抜けて……、危なかったですよ。

小池 正面にいた叶精作という漫画家の所に飛んでいつてね、「オヤジに殺されそうになった」と今でも言われますよ。

逢坂 最後に業界の先輩として、時代劇・映画含めて21世紀の作家達に、伝えたい事をお聞かせ下さい。

小池 頑張れ、目指すのは世界制覇を、ですね。米国は銃の国ですが、刀の美しさには勝てません。だからみんな日本刀が好きで時代劇がヒットしてるわけです。

逢坂 そのためにはもっと国策に期待したいし、クリエイターに対する支援も是非お願いしたいです。コミックもいいんですが、小説も読んでいただければと思います（笑）でも、ほんとに、時代劇とか西部劇の息を絶やしてはいけないと思います。

小池 拳銃のひとつひとつに「バイソン」とか「牛殺し」とかあだ名がついて、拳銃

にはキャラクターがありますね。

逢坂 昔、ジエムズ・スチュワート主演の『ウィンチエスター銃73』という映画がありました。人の手から手へと渡ってゆく、そのウィンチエスター銃73が主人公の作品です。

小池 銃が主人公っていいですね。

逢坂 話は戻りますが、若山さん、勝さんの居合の映像が残っているといいですね。

小池 そうですね。抜刀する時は左足が支点になります。舞台上立つ役者さんは、能でも歌舞伎でも、一歩目を踏み出す前に必ず右足の親指がピッと立つそうです。

剣術の居合抜きも、そういうことを知っているとしてよく役に立ちます。私も居合抜きの時にフッと動きはじめる瞬間、やっぱり足の親指が立っていました。

逢坂 無意識に、ですか？

小池 意識しないで構えるでしょ。気がついてたら親指が立っていたんです。

逢坂 ということは、相手からすると足の親指がピッと立ったとたんに……。

小池 そう、剣の達人は相手の足の親指が立ったら「来るな」ということでしょうか。

逢坂 それは実にリアルですね。そういうところを細かく書くのがリアルティが増します。小説で使えそうな気がしてきましたあ（笑）

小池 使っていいと思います。そういう



話をやっぱり読みたいですね。見ただけで「出来る」と思うと怖くなりますね。

逢坂 最近は時代劇が少なくなりましたね。

小池 大河ドラマも、時代劇じゃなくて俳優中心のドラマで、瀬戸物を扱うように

やさしい型にはまった演出ばかりです。時代劇ってそんなものじゃないですよ、リアルな芝居が観たいですね。剣道には「型」が12あって12の型を取るんですが、寸止めみたいにはピタッと止めるんです。それをする時ですら鳥肌が立ちます。

逢坂 寸止め出来ず、切り込まれたらどうするんだろう、と思います。原作だけじゃなくて、いわゆる小説はお書きにならないんですか？

小池 「怖い」という経験をしないと、時代劇の書き下ろしも映画も難しいと思いま

す。

逢坂 おっしゃる通りです。せめて、剣道の心得でもあれば、違うんでしょうが……。

津本陽さんは、長く剣道をやっていたから上手いし、北方謙三も「巻葉を切った」と時々自慢しています。

小池 巻葉は切れないですよ。私が練習したのはタケノコです。本物の竹は叩けば撥ね返されるだけで切れません。だから錦之介さんの『子連れ狼』の時、刀を背負ったんですよ。勉強してるなあ、と思いますね。

逢坂 今の俳優に、監督さんが教えるというところ、ないでしょうか。

小池 教えるなんて失礼な事ではなく、訊かれれば答えることにしています。

逢坂 今日貴重なお話をどうもありがとうございました。